

枝打鋸の改良について

福島・日義担当区事務所 新原 兼雄

はじめに

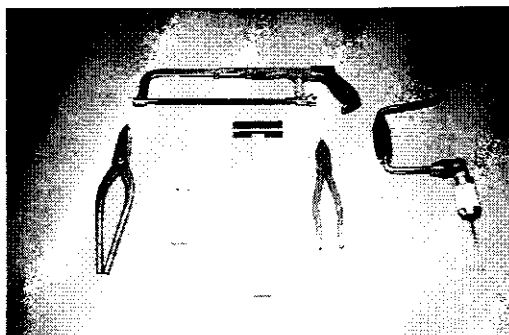
担当区では、ここ数年冬期作業は厳寒期をのぞき、その大半が枝打作業に従事している。

以前は、梯子に登っての作業で、危険な高所作業であるうえに、灌木、笹などのある、積雪の山の斜面を、重い梯子を持ち歩くのは大変な作業であった。その後市販の長い柄付きの鋸を使用する作業となったが、鋸が重いため、腕の疲れが大きい割には、非効率であった。

そこで、この枝打鋸を軽量化・小形化できないものかと、全員で工夫し合い、試行錯誤を繰り返した結果、昭和60年にほぼ現在の型になり、その後7シーズン使用して、好結果を得たので紹介する。

1. 作成用工具

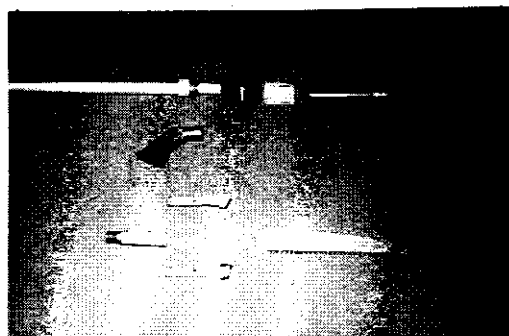
ドリル・レールソー・トタンバサミ
平ヤスリ・金槌・ペンチ・各1丁づ
用意する。(写-1)



写-1

2. 使用部品

アルミパイプ・ステンレス板・目く
ぎ 電気配管用メスネジ部・手ノコ
用柄・以上が柄側である。
鋸刃・木製のクサビ2個・目くぎ・
電気配管用オスネジ部・以上がノコ
ギリ側である。(写-2)



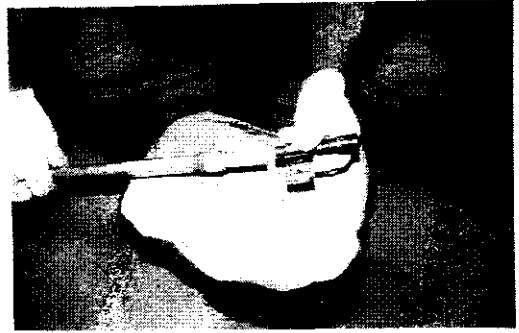
写-2

3. 作成方法

(1) 柄側

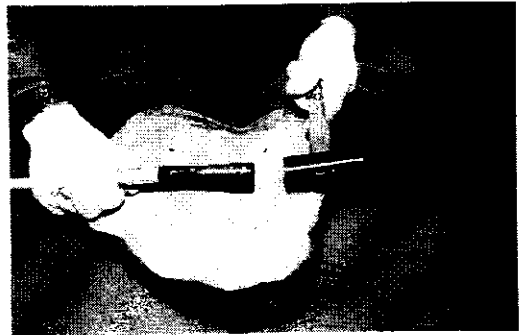
電気配管用メスネジ部に、ステンレス板を巻き付けパッキンとする。

(写-3)



写-3

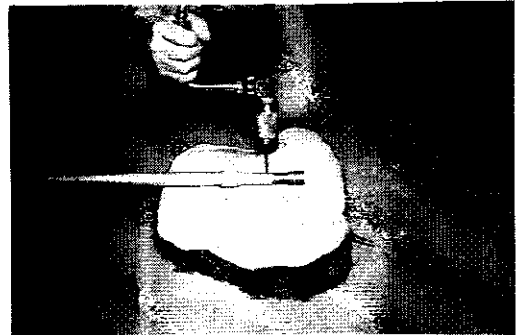
これをアルミパイプの先端に、金槌で固く打ち込む。(写-4)



写-4

ドリルで穴を開け、目くぎで固定する。(写-5)

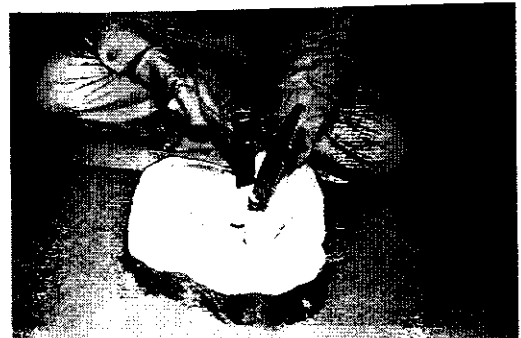
手鋸用も、柄に電気配管用メスネジ部を取り付け、ドリルで穴を開け目くぎで固定する。



写-5

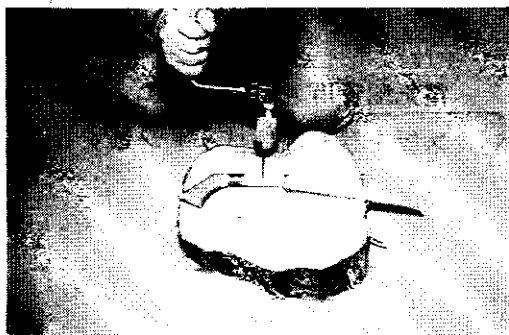
(2) 鋸刃側

オスのネジ部とノコギリの間に、クサビを固く打ち込む。(写-6)



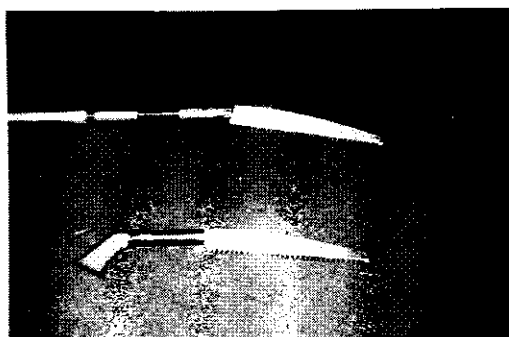
写-6

ドリルで穴を開け、目くぎを打ち込み固定する。(写-7)



写-7

以上で完成である。(写-8)



写-8

4. 使用状況

アルミパイプの柄は、伸縮が自由自在で、対象木に合わせた枝打高が採りやすい。(写-9) (写-10) 柄を手鋸用に変えての作業。(写-11)



低い所 写-9

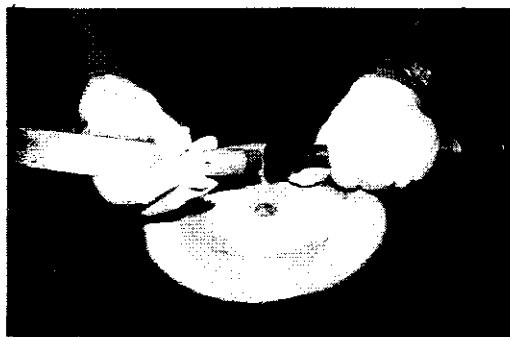


高い所 写-10



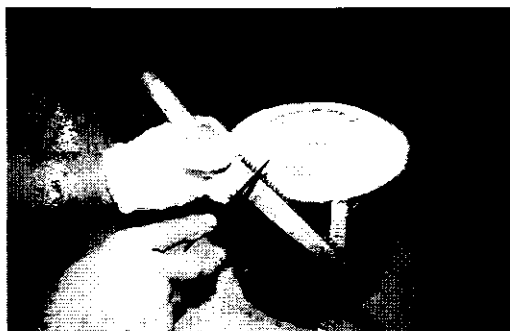
写-11

鋸刃の脱着はネジ込み式であり、大変簡便である。(写-12)



写-12

狭い幕舎内等でも、鋸刃の手入れができる。(写-13)



写-13

アルミパイプの柄を外せば、杖として使用できる。(写-14)
鋸刃は鞘に収めることができるので、安全である。(写-15)



写-14



写-15

市販のノコギリとの比較であるが、左が市販されているもので、重さは1600gある。

右が今回改良し、小型化・軽量化した枝打鋸で、重さは市販鋸の約3分の1の550gである。(写-16)



写-16

5. 使用結果

- (1) 軽量化・小型化したために、林内での取扱いが容易な上に、作業中の移動もスムーズで、腕の疲れも少く、能率向上が図れた。
- (2) 梯子の移動や、危険な高所作業がなくなった。
- (3) 鋸部が簡単に取り外せることから、
 - ①狭い幕舎内でも、目立て等が容易にできる。
 - ②鋸刃は鞘に収めることができるので、移動時も安全である。
 - ③柄を取り替えれば、手鋸としての使用も可能である。
 - ④アルミパイプは、杖としての使用も可能である。
- (4) アルミパイプの柄は、伸縮が自由自在なので、対象木にあわせた枝打高が採りやすい。
- (5) 鋸刃以外は廃品利用のため、経費はほとんどかからない。

おわりに

この種の枝打鋸は、市販されている物もあるが、「より安全に」「より楽に」「より早く」作業ができるよう、改良を加えたものであり、これからも、工夫を積み重ねることにより、技術開発を進め、一層安全で、能率的な作業ができるよう、取り組んでまいりたい。